

水耕栽培で育てた黒キャベツ初出荷 関西の阪急オアシスグループへ納入

木下ファーム

建設業の④木下組などの持ち株会社KGGホールディングス（佐伯区五日市町石内5998-1、田中敏彦社長）は、2016年秋から佐伯区五日市町石内で水耕栽培を始めたイタリヤ・トスカーナ特産の黒キャベツが育ち、2月に「高質食品専門館」を展開する阪急オアシス（大阪グループ約60店舗）へ初出荷する。未経験者でも参入しやすい水耕栽培事業を軌道に乗せ、増え続ける農作業放棄地や休耕地の活用と同時に、農村地帯の人口滞留やI・Uターン者らの就農を後押しする。

事業会社として16年11月16日付で木下ファーム（社長同）を設立。現在、幅6・6×奥行33×高さ4・2mの高床式パイプハウス1棟で週2000袋前後（1袋数枚入り）の収穫を見込む。オアシスグループ約60店舗向けに、木下ベジタブルの専用梱包で各店20〜40袋を週2回、出荷する計画。広島エリアは外食産業を中心に販路を広げていく。ハウス1棟当たり年6回の収穫で、売上高2300万円以上を目指す。土地

所有者の新規農業参入のサポートや就農者にリースするなど、多様な事業スキームを描く。

ちりめん葉状の黒キャベツは、ビタミンやカロチン、カルシウム、鉄分などが豊富で、栄養価が高い。温度や湿度、養液濃度などを自動管理するシステムは、品質や収穫量が安定。従事者の体への負担が少なく、農業収益の安定化や里山の復活も期待される。1月25日には五日市町石内のモデルファームで試食会を開き、ハウス設備の見学や黒キャベツを使った料理などを振る舞った。

KGGホールディングスは、施設点検などの木下エネルギーソリューションズ、メガソーラー管理運営の木下エネルギーパーク、環境測定の木下コンサルタント、注文木造住宅建築の宝工務店、海外事業の木下USAなども擁する。